

令和3年度1学期終業式挨拶

校長 田名 裕治

うだるような暑さが続く中、1学期の終業式を迎えることとなりました。生徒の皆さん一人ひとりがこれから先の学業や部活動等に想いを巡らしていることと推察しております。3年生は進学等に向け、この夏が正念場そして3年間の集大成となります。1・2年の皆さんは、この長期休業期間を計画的にそして将来の向けての準備時間として積極的に捉え、学業や部活等にますます邁進して下さい。

さて、昨年同様コロナ禍の中、我々は学校生活や日常の行動に多くの制約を加えざるを得ない状況が続いています。それは、本校における「学び」にも少なからず影響を与えました。残念ながら、現在のコロナ禍は収束の目処もたない予測不可能な状況です。特に沖縄県は予断を許さない状況が継続しているというのが実情ではないでしょうか。我々一人ひとりが改めて感染予防を徹底していきましょう。

ただ、その様な状況下でも我々は「学びを止めない」こと。そして、継続的な「進路支援」を実施していかなければなりません。

夏休み期間中の対面での授業や各種調整、講座等、そしてリモート形式での学びであっても「学びを止めるな」の言葉を肝に銘じて欲しいと考えています。どのような状況下であっても学ぶことに食欲であって欲しいのです。

校長先生が座右の銘としている言葉「凡事徹底」を事ある毎に紹介しておりますが、皆さんの日々の生活に浸透しておりますか。「当たり前」の事が「当たり前」にできる」という趣旨の言葉で、とても簡単なことです。

1日1日の各教科の授業を大切にし、内容を「本理解」できましたか。本理解とは、教科書に内容や先生方の教科指導の本質を理解できたかどうかということです。これからの問いは続きます。

部活動や学校行事等につきましては、君達に大きな制約を課すこととなり大変心苦しい思いです。僅かではありますが、親睦球技大会を生徒会が中心となり企画運営できた事は、日頃培った「絆・つながり」を深化・具現化できたものと喜んでおります。

嬉しい事に自分から率先して挨拶をする生徒が多くいることに、本校の将来がとても明るく希望に満ちていると実感しております。挨拶ができることこそ社会性や協調性、世の中で生きていく基盤です。引き続きみんなで頑張っていきましょう。

生徒一人ひとりが、決まり事や約束事を守るという事も実践でき素晴らしかったと考えております。一部改善しなければならない点もありましたが、上々の内容でした。

私をはじめ多くの先生方が、君達一人ひとりの成長を実感するとともに頼もしささえ憶えています。本日以降もこのまま真っ直ぐに成長して欲しいとおおいに期待しているところです。北中城高校を成長させる原動力は、まさに君達一人ひとりの「真っ直ぐな成長」そのものです。北中城高校の生徒であるという自覚とプライドを持ち続け、共に頑張っていきましょう。

令和3年7月21日